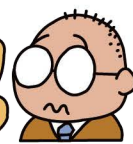


東成区の昭和 やぶにらみ日記



柳たかを 絵と文

母の愛情

僕の小学3年の春休み、父の写生について奈良吉野の山中を歩きまわり、疲労から風邪をひいた。

翌日、熱があるのに無理に登校し授業中に高熱が出て、小遣いさんの自転車の後ろに乗せてもらって早退した。

そこから3か月、肺炎で生死をさまよった。

戦後、まだ貧しい時代、日本画家の父は日銭稼ぎで学用品にイラストカットを描くアルバイトをして家族を養った。

戦争で活動停止していた青龍社(川端龍子主催の日本画団体)が再開し、父も先輩に誘われ画

家に復帰するため作品応募しカムバックしようともがいた。

ただ作品制作期間はアルバイトを辞めるため収入がなく、僕の治療費もかさみ、家族6人にとって試練の日々。ただ高熱で苦しいさなかでも僕は心のどこかで楽観していた。

父の入選の知らせを聞いた時も絶対そうなる気がしていた。

振り返ると前向きでマイナス思考と無縁の気性の母の愛情に守られていたように思う。

子の生を強く信じる心が家族と僕を生かしてくれたのだらうと。

(やぶにらみ日記・完)

※次回以降は番外編でお目にかかります



やぶにらみ日記 (590)

東成区の沼和

(132) 写生



やぶにらみ日記 (591)

東成区の沼和

(133) 写生



やぶにらみ日記 (592)

東成区の昭和

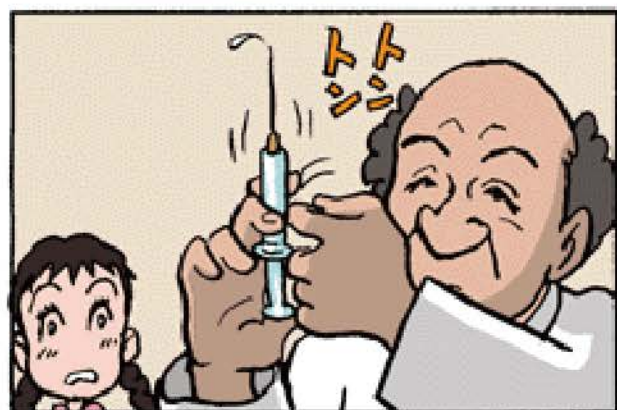
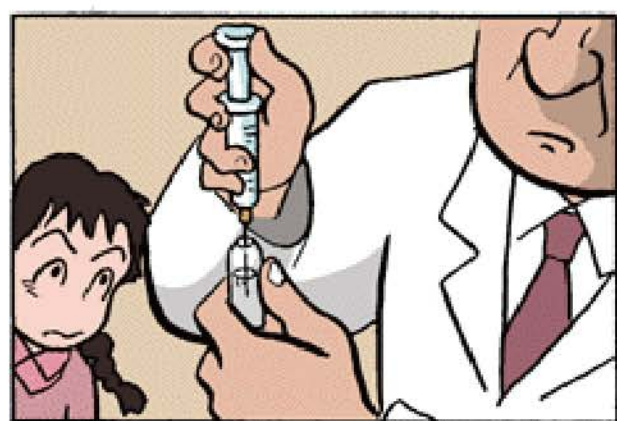
(134) 写生



やぶにらみ日記 (593)

東成区の昭和

(135) 写生



やぶにらみ日記 (594)

東成区の昭和

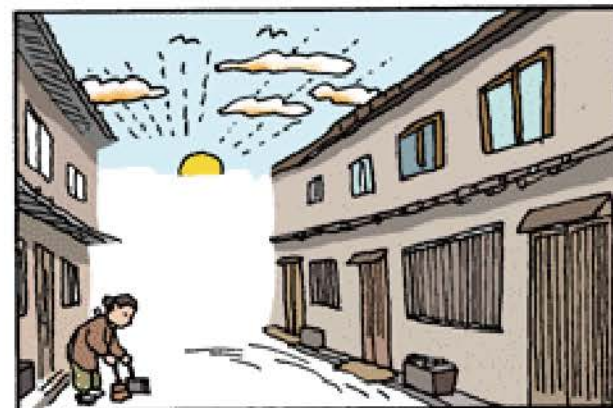
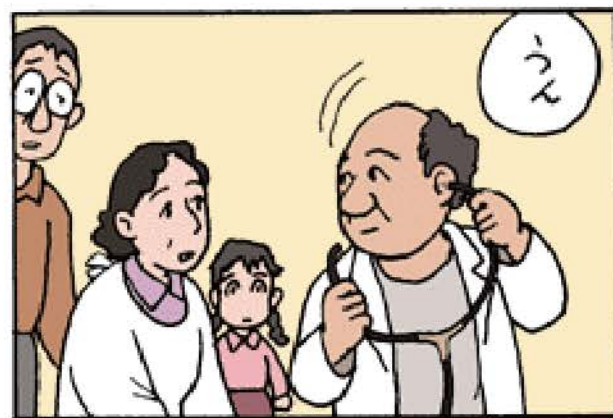
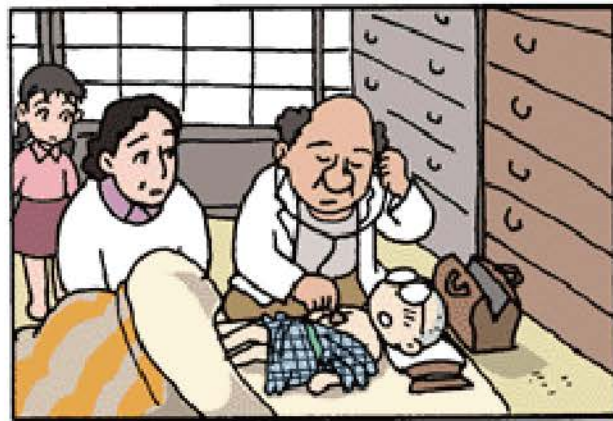
(136) 写生



やぶにらみ日記 (595)

東成区の昭和

(137) 写生



やぶにらみ日記 (596)

東成区の昭和

(138) 写生



やぶにらみ日記 (597)

東成区の昭和

(139) 写生





やぶにらみ日記 (600)

東成区の昭和



(142) 写生



やぶにらみ日記 (601)

東成区の昭和



(148) 写生



やぶにらみ日記 (602)

東成区の昭和



(149) 写生



やぶにらみ日記 (603)

東成区の昭和



(150) 写生 おわり

